

## 10章 引用の方法と参考文献の書き方

ここでは、引用の方法と  
参考文献の書き方について説明します

109

## 引用って何？

前章までに探したような様々な資料を、  
自分の意見の客観的根拠として利用する

著作権法32条（引用）

「公表された著作物は、引用して利用することができる。  
この場合において、その引用は、公正な慣行に合致するも  
のであり、かつ、報道、批評、研究その他の引用の目的上  
正当な範囲内で行なわれるものでなければならない」

「引用」には条件がある  
公正な慣行？ 正当な範囲内？

110

## 条件1.あくまで、自分の意見が主 （主従関係）

文書Aはいつのものだろうか

13世紀以降に書かれた文書Aに  
B火山の噴火と思われる記述がある

B火山は1220年ごろに噴火し、  
その後は噴火していない

つまり、文書Aは1220年ごろの  
ものと考えられる

## 条件2.あなたと私を区別する （明瞭区分性）

自分の意見と引用は、  
明確に分けて記述する

文書Aの成立は1220年ごろと考えられる。  
その根拠は以下の2つである。Bは「文書  
Aは13世紀以降に成立と考えられ、その  
中にはB火山の噴火の記述がある」として  
いる。またCの研究によると「B火山の噴  
火は1220年ごろ」おこっている。

112

## 条件3. その引用、必要ですか （必然性）

論拠として必要な部分のみ引用する。  
不必要に長い引用は「盗用」とみなされる  
こともある

文字数が足りないから、  
長めに引用しようかな… **ダメです！**

113

## 引用の際は、必ず 出典を明らかにする

著作権法第48条（出所の明示）

「当該各号に規定する著作物の出所を、その複製又は利用の  
態様に応じ合理的と認められる方法及び程度により、  
明示しなければならない」

論文やレポートを読んだ人が、同じもの  
を見て検証ができるようにする

114

## 引用・参考文献の書き方ルール

- 引用や参考文献の書き方には、さまざまなバリエーションがあるため、先生から指示がある場合にはそれに従う
- 特に指示がない場合でも、レポート内で統一した書き方で書くこと
- 以降は一般的な書き方の一例を示します

115

## 本文中での引用の仕方

### 1) もとの文章をそのまま利用する場合 (直接引用)

#### ・引用が短い場合 (1~2行程度)

該当の部分を「」でくくり、引用であることを示す

ドラッカーは意思決定について、「意思決定は判断である。いくつかの選択肢からの選択である」<sup>1</sup>と述べている。

1 ドラッカー、PF、『プロフェッショナルの条件』、上田敦生編訳、東京：ダイヤモンド社、2000年、158頁

116

## 本文中での引用の仕方

### ・引用が長い場合 (3行以上など)

引用部分の前後1行空けて2~3文字下げる  
書体をイタリックにしたり、フォントサイズを下げて文字を小さくする場合もある

ドラッカーは次のように述べている。

誰でも、自らの強みについてはよくわかっていると思っている。だが、たいていは間違っている。わかっているのは、せいぜい弱みである。それさえ間違っていることが多い。しかし何ごとかをなし遂げるのは、強みによってである。弱みによって何かを行うことはできない。できないことによって何かを行うことなど、とうていできない。

117

## 本文中での引用の仕方

### 2) 自分の言葉に直して内容を引用する場合 (間接引用)

ドラッカーは、意思決定は判断であり、しかもそれは、正しいかどうかとも疑わしいような選択肢からの選択であるとしている<sup>1</sup>。

1 ドラッカー、PF、『プロフェッショナルの条件』、上田敦生編訳、東京：ダイヤモンド社、2000年、158頁

上記の例のように、もとの文章の内容を自分の言葉に直して、情報の内容を正確に引用する

もとの文章に書かれていないことを書いたり、もとの文章の意味を変えて引用するのは不可

118

## 出典の示し方の例 (脚注/後注)

田中は現代の学生の対人関係に関する傾向について「xxxxxx」<sup>1</sup>と述べている。一方で、佐藤は2019年度に実施した学生アンケート調査の結果から「xxxxxx」<sup>2</sup>と指摘している。

1 田中A太『●●●●●』、ABC出版、2018年、123頁  
2 佐藤B子『●●●●●に関する考察』、『K0大学論文集』、K0大学出版、2018年、55頁

- 出典を示したい箇所の右肩に通し番号を振る
- 対応する番号をつけた出典情報をそのページ下部に(=脚注)、または本文の最後にまとめて(=後注/文末脚注)入れる

119

## 出典の示し方の例 (続き)

- 同じ資料を再び引用する場合は、直前の資料なら「同書」、いくつか前の資料なら「著者名+前掲書」のように省略して記載してよい。

田中は現代の学生の対人関係に関する傾向について「xxxxxx」<sup>1</sup>と述べている。一方で、佐藤は2019年度に実施した学生アンケート調査の結果から「xxxxxx」<sup>2</sup>と指摘している。・・・  
また、佐藤が言及していたxxxxxxの特性<sup>3</sup>を考慮すると・・・  
さらに田中の「xxxxxx」<sup>4</sup>という主張と比較しても・・・

1 田中A太『●●●●●』、ABC出版、2018年、123頁  
2 佐藤B子『●●●●●に関する考察』、『K0大学論文集』、K0大学出版、2018年、55頁  
3 同書、145頁  
4 田中、前掲書、188頁

120

## 注に補足情報を入れる場合

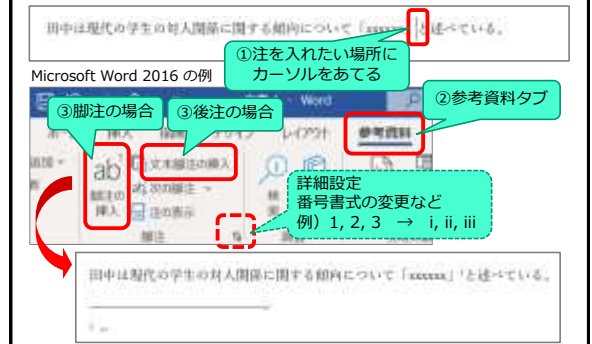
近年はアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる授業スタイルが目ざされているが・・・

1 アクティブ・ラーニングとは、反転授業ともいわれ・・・

- 本文中に書くと流れが悪くなる場合など、本文の補足情報も注に入れることができる

121

## Wordの脚注機能



## 参考文献リスト

- 参考にした文献のリストを本文の最後に著者のあいうえお順（またはアルファベット順）に表記する

### 参考文献

阿川B美『●●●●』、EFG出版、2017年  
伊藤A助『●●●●』、ABC出版、2018年  
山田C吉『●●●●』、XYZ出版、2016年

引用してなくても、本文の作成に参考にした文献は記載する

1 伊藤A助『●●●●』、ABC出版、2018年、131頁  
2 同書、150頁  
3 阿川B美『●●●●』、EFG出版、2017年、58頁

参考文献と脚注は分けて記述する（まとめて一緒に記述するパターンもある）

123

## 引用・参考文献に記載する情報

- 特に指定がない場合も、最低限、以下の情報（第三者でもその文献を特定できる情報）を入れる

### <図書の場合>

著者名、書名、出版社、出版年、（引用ページ）

### <論文の場合>

著者名、論題、掲載雑誌名、巻・号、刊行年、（引用ページ）

※Webの場合は、URLと参照した日付も入れる  
例）・・・ <https://xxx/xx.html>（参照 2021-01-25）

124

## 分野別の参考文献の書き方（スタイル）

### <海外のスタイル例>

- APA (米国心理学会)
- MLA (米国現代語学文学学会)
- Chicago Style (シカゴ大学)
- Vancouver Style (国際医学雑誌編集者委員会)
- AIP (米国物理学会)
- ACS (米国化学会)

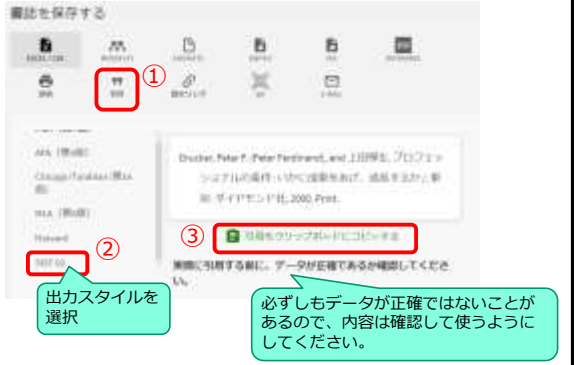
### <国内のスタイル例>

- SIST02 (科学技術情報流通技術基準) ★章末参照
- 法律文献等の出典の表示方法 (法律編集者懇話会)

分野や雑誌によって様々なスタイルがあるため、指定がある場合はそれに従ってください。

125

## KOSMOSの引用コピー機能



## SIST02 準拠 資料タイプ別の参考文献の書き方

以下は、「SIST(科学技術情報流通技術基準)」<sup>1</sup>に準拠した参考文献の書き方です。レポートの参考文献を書くひとつの参考にしてください。(レポートの出題者や担当教員の指示がある場合は、それに従ってください。)同じレポートの中では、一つの記載形式(スタイル)で統一しましょう。

\*存在しないあるいは不明の項目は記載不要

### 1. 図書

#### 1.1 全体を利用した場合

著者名. 書名. 巻次. 訳者名. 版表示, 出版地, 出版者, 出版年, 総ページ数, (シリーズ名, シリーズ番号).

\*版表示で「初版・第1版」は記載不要

\*図書の出版地、総ページ数は、記載されないことも多い

\*著者が複数の場合は、最初の1名のみを記載し、ほか(et al.)で省略してもよい

- 1)小笠原喜康. 大学生のためのレポート・論文術. 新版, 東京, 講談社, 2009, 221p., (講談社現代新書, 2021).
- 2)近藤裕子ほか. 失敗から学ぶ大学生のレポート作成法. 東京, ひつじ書房, 2019, 129p.
- 3)Atkins, P. W.; De Paula, Julio. 物理化学要論. 千原秀昭, 稲葉章訳. 第5版, 東京, 東京化学同人, 2012, 572p.
- 4)Varian, Hal R. Intermediate microeconomics : a modern approach. 8th ed., New York, W. W. Norton, 2010, 739p.

#### 1.2 特定のページあるいは特定の1章・1論文を利用した場合

著者名. “章の見出し or 論文名”. 書名. 編者名. 版表示, 出版地, 出版者, 出版年, はじめのページ-おわりのページ, (シリーズ名, シリーズ番号).

- 1)福田アジオ. 現代日本の民俗学 : ポスト柳田の五〇年. 東京, 吉川弘文館, 2014, p. 172-181.
- 2)James, Gareth et al. “Linear Model Selection and Regularization”. An introduction to statistical learning : with applications in R. New York, Springer, 2013, p. 203-264, (Springer Texts in Statistics, 103).
- 3)“感覚・知覚・感性”. 心理学. 和田万紀編. 第2版, 東京, 弘文堂, 2014, p. 51-77, (Next 教科書シリーズ).

<sup>1</sup> “SIST 02 参照文献の書き方”. SIST:科学技術情報流通技術基準, 科学技術振興機構編. 東京, 科学技術振興機構, 2012, p. 75-112.

<https://jipsti.jst.go.jp/sist/> あるいは

[https://jipsti.jst.go.jp/sist/handbook/sist02\\_2007/main.htm](https://jipsti.jst.go.jp/sist/handbook/sist02_2007/main.htm), (参照 2021-01-25).

### 1.3 辞書・事典の1項目

著者名. “項目名”. 書名, 巻次. 編者名. 版表示, 出版地, 出版者, 出版年, はじめのページ-おわりのページ, (シリーズ名, シリーズ番号).

\*巻次がない場合、書名はピリオドで区切る

- 1)伊藤佑子. “ダウン症の妊婦血液診断の臨床研究”. 現代用語の基礎知識 2013. 東京, 自由国民社, 2013, p. 783-784.

## 2. 雑誌論文

著者名. 論文名. 誌名. 出版年, 巻数, 号数, はじめのページ-おわりのページ.

\*「巻数」、「号数」は、どちらか一方のみしか持たない雑誌も多い

<巻・号を完全記述した例>

- 1)藤井寛行. 2020年オリンピック・パラリンピックを見据えた東京のまちづくり. 新都市. 2013, vol. 67, no. 12, p. 61-69.
- 2)Helbing, D. Traffic and related self-driven many-particle systems. Reviews of modern physics. 2001, vol. 73, no. 4, p. 1067-1141.
- 3)中山俊宏. トランプ化する共和党 : アメリカにおける保守主義運動の変質、もしくは終焉. 世界. 2018, no. 915, p. 195-204.

<例1)の巻・号を簡略記述した例>

- 4)藤井寛行. 2020年オリンピック・パラリンピックを見据えた東京のまちづくり. 新都市. 2013, 67(12), p. 61-69.

## 3. 新聞記事

著者名. 記事タイトル. 新聞名. 発行年月日, 朝夕刊, 版, 該当ページ.

- 1)貝戸清之. (私の視点)インフラ老朽化 膨大な点検データ生かせ. 朝日新聞. 2014-03-01, 朝刊, p. 15.
- 2)再生医療、特許5年長く、最長25年に、政府、実用化を後押し. 日本経済新聞. 2014-02-13, 朝刊, p. 1.
- 3)William, Booth.; Ruth, Eglash. On the move from France to Israel. The Washington Post. 2014-01-25, A01.

## 4. インターネット上の情報

### 4.1 図書(電子ブック) 全体を利用

著者名. 書名. 訳者名. 版表示, 出版地, 出版者, 出版年, 総ページ数, (シリーズ名, シリーズ番号). 入手先, (入手日付).

- 1)戸田盛和. 物性物理 30 講. 東京, 朝倉書店, 2000, 229p., (物理学 30 講シリーズ, 9).  
<http://search.ebscohost.com/login.aspx?direct=true&db=nlebk&AN=207597&lang=ja&site=ehost-live>, (参照 2021-01-25).

#### 4.2 白書の1項目・データ

“章名・表名”. 白書名. 編者名. 出版者, 出版年, はじめのページ-おわりのページ.  
入手先, (入手日付).

\*白書は年刊なので、書名の一部として版次を書くとい

- 1)「厚生労働省」が作成する「厚生労働白書 平成25年版」の「第1部 第1章」を参照した場合  
“第1部 第1章 若者を取り巻く社会経済の変化”. 厚生労働白書平成25年版:若者の意識を  
探る. 厚生労働省, 2013, p. 4-36. <https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/13/dl/1-01.pdf>,  
(参照 2021-01-25).

\*「若者の意識を探る」は、「厚生労働白書 平成25年度」の副題

#### 4.3 データベースの辞書・事典の1項目

著者名. “項目名”. データベース名(辞書・事典名). 提供者, 入手先, (入手日付).

\*データベース名と参照した辞書・事典名が異なる場合、( )で補記する

- 1)日本化学会が提供するデータベース「化学書資料館」中の「標準化学用語辞典 第2版」の  
1項目「イオン化傾向」を参照した場合  
“イオン化傾向”. 化学書資料館(標準化学用語辞典). 日本化学会, <https://www.chem-reference.com/>, (参照 2021-01-25).
- 2)Oxford University Press が提供するデータベース「Oxford English dictionary」の1項目  
「trust」を参照した場合  
“Trust”. Oxford English dictionary. Oxford University Press, <https://www.oed.com/>,  
(参照 2021-01-25).

#### 4.4 雑誌論文(電子ジャーナルの論文)

著者名. 論文名. 誌名. 出版年, 巻数, 号数, はじめのページ-おわりのページ. 入手先,  
(入手日付).

- 1)平林正司. ショパンのヴァルス:ワルシャワからパリへ. 慶應義塾大学日吉紀要 人文科学.  
2008, no. 23, p. 275-300. [https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara\\_id=AN10065043-20080531-0275](https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10065043-20080531-0275), (参照 2021-01-25).
- 2)Einstein, Albert. Lens-like action of a star by the deviation of light in the gravitational field.  
Science. 1936, vol. 84, no. 2188, p. 506-507. <https://www.jstor.org/stable/1663250>, (参照  
2021-01-25).

#### 4.5 新聞記事(データベース・新聞社のサイトの記事)

著者名. 記事タイトル. 新聞名. 発行年月日, 朝夕刊, 版, 該当ページ. サイト名 or デー  
タベース名, 入手先, (入手日付).

\*紙の新聞あるいは紙をベースにした新聞記事データベースを参照することが望ましい

1)朝日新聞のデータベース「聞蔵Ⅱビジュアル」で検索した記事

晴れの舞台、輝くメダル ノーベル賞授賞式. 朝日新聞. 2014-12-11, 朝刊, p. 1. 聞蔵Ⅱビジュアル, <https://database.asahi.com/index.shtml>, (参照 2021-01-25).

2)朝日新聞の電子速報版サイト「朝日新聞デジタル」の記事

奥村信幸. 政治とメディアの「金属疲労」 テレビ討論に限界. 朝日新聞. 2019-07-11, 朝日新聞デジタル, <https://webronza.asahi.com/politics/articles/2019070200005.html>, (参照 2021-01-25).

\*朝日新聞デジタルの記事には、朝・夕刊の別、ページや面の記載はない

3)新聞記事データベース「Nexis Uni」で、「The New York Times」の記事を検索

Daniel, Yergin. Who will rule the oil market?. The New York Times. 2015-01-25, p. 6. <http://www.nexisuni.com/>, (accessed 2021-01-25).

#### 4.6 ウェブページ

著者名. "ウェブページの題名". ウェブサイトの名称. 更新日付. 入手先, (入手日付).

1)農林水産省食料産業局知的財産課. “農林水産省品種登録ホームページ”. 農林水産省. <http://www.hinshu2.maff.go.jp/>, (参照 2021-01-25).

2)慶應義塾. “慶應義塾豆百科 No.72 図書館のステンドグラス”.

<https://www.keio.ac.jp/ja/about/history/encyclopedia/72.html>, (参照 2021-01-25).

\*ウェブサイトの名称が著者名と同じ場合、略してもよい

#### 参考文献の書き方の手引

- 1) 藤田節子. レポート・論文作成のための引用・参考文献の書き方. 東京, 日外アソシエーツ, 2009, 144p.
- 2) 佐藤望編, 湯川武ほか. アカデミック・スキルズ : 大学生のための知的技法入門. 第2版. 東京, 慶應義塾大学出版会, 2012, 180p.
- 3) 法律編集者懇話会. “法律文献等の出典の表示方法”. 法教育支援センター. <http://www.houkyouikushien.or.jp/katsudo/pdf/houritubunken2014a.pdf>, (参照 2021-01-25).
- 4) Turabian, Kate L. シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル. 沼口隆, 沼口好雄訳. 東京, 慶應義塾大学出版会, 2012, 588p.
- 5) The Modern Language Association of America. MLA ハンドブック. フォスター紀子, トーマス・マーティン訳. 東京, 秀和システム, 2017, 199p.
- 6) The American Psychological Association. APA 論文作成マニュアル. 第2版. 江藤裕之ほか訳. 東京, 医学書院, 2011, 328p.
- 7) 藤田節子. “「引用・参考文献の書き方」作成テンプレート”. 日外アソシエーツ. <http://inyo.nichigai.co.jp/>, (参照 2021-01-25).

\*書名、著者名、出版社といった情報を記入例に従って入力すると自動的に参考文献の形式で表示されます